

第3種郵便物認可

徳島新聞 第3種郵便物認可

川口 大舞台で躍動

安岡(学生光) 3位 女子砲丸

陸上

全国高校大会



安岡若菜

25日にエディオンスタジアム広島で行われた陸上の全国高校大会最終日は、女子砲丸投げで川口由貴(生光学園)が優勝

3位の安岡若菜が13秒65で3位、三田樹梨香が13秒

23日8位入り、出場した同校の3人がそろって入賞を果たした。(1面参照)男子砲丸投げは日本高校砲丸投げ連盟のアソビ校船橋保善のアンソビン・ジェイソン(大阪桐蔭)が57秒78で、女子4000mは山本亜美(京都府立総合運動場)が5分51秒51で制した。20年全国大会の各走り幅跳びに出場した吉田美優(福岡大、鳴門渦潮高)が20秒88で、女子は川原(神戸大、相模)が23秒82で制し、ともに1000kgの念珠に輝いた。

(埼玉・西武学園文理)が20秒88、女子は川原(神戸大、相模)が23秒82で制し、ともに1000kgの念珠に輝いた。男子砲丸投げは日本高校砲丸投げ連盟のアソビ校船橋保善のアンソビン・ジェイソン(大阪桐蔭)が57秒78で、女子4000mは山本亜美(京都府立総合運動場)が5分51秒51で制した。20年全国大会の各走り幅跳びに出場した吉田美優(福岡大、鳴門渦潮高)が20秒88で、女子は川原(神戸大、相模)が23秒82で制し、ともに1000kgの念珠に輝いた。



全国高校陸上の女子砲丸投げで14秒37をマークし、優勝した生光学園の川口=エディオンスタジアム広島

高1記録 11年ぶり更新

並み居る上級生を寄せ付けず、1年生が大舞台で躍動した。女子砲丸投げで初の日本一に立った川口(生光学園)。表彰回数の4回に減らず、1位の記録を11年ぶりに更新した。一筋に出場した3年の

安岡、2年の三田という先達2人の存在も大きかった。「1投目で先に安岡さんがいい投げをしてくれたおかげでリズムに乗れた」と感謝する。個人戦ながらも、3人がチームのように団結。全員が入賞を果たし、川口は「先輩たちと二階に入場したのが嬉しかった。入賞できたことがうれしい」と喜んだ。ベンチで90秒を上げる筋力も大きな要因。生光学園中時代から指導する林監督は「一番の良さは無駄のない正確な投ぎ動作」と話している。小松島市の自宅を離れて寮生活を送り、体づくりに専念する。川口が1投目、好記録を出したことに刺激を受け、自分も投げたという気持ちになったと振り返る。

今夏の全国総体(インターハイ)が中止となり、選手権大会も延期された。川口は「練習を積み重ねてきたので、大会でも結果を出したい」と意気込みを語った。



生光学園高・三田樹梨香(女子砲丸投げ28位)



安岡若菜(女子砲丸投げ3位)

最終4回目で両メダルつかむ安岡さん。高校最後の全国大会で、納得の銅メダルを手に入れた。女子砲丸投げで自己ベストを36秒更新する13秒65で3位に入った安岡(生光学園)は「この大会に向けて頑張ってきたのでうれしい」と笑顔をかきたてた。